# 平成２８年度　住宅地盤技士（調査部門）　正解および解説

| 問題 | 正解 | 解　　説 |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 凝灰岩 |
| 2 | 1 | 河川沿いに帯状に発達。 |
| 3 | 2 | 粘土分 15%以上 50%未満に該当、粘土質砂という。 |
| 4 | 3 | ピートは繊維はあるが粘土に比べて付着しにくい。 |
| 5 | 3 | $F_L$ 値が 1 を上回れば液状化の可能性は低い。 |
| 6 | 1 | 地質図の説明である。 |
| 7 | 4 | （D）は近くの標高から段丘・台地である。 |
| 8 | 4 | 接合部で段差が生ずる。 |
| 9 | 2 | 告示 1113 号によると標準貫入試験と静的貫入試験が入る。 |
| 10 | 1 | 最大径 30㎜ 以上 |
| 11 | 4 | 回転時の抵抗が著しく大きくなる場合や障害物で貫入不能の場合も条件に入る。 |
| 12 | 4 | 鉛直性、周面摩擦、貫入障害、深度が大きくなる場合精度に問題がでる。 |
| 13 | 1 | （ア）8（イ）20（ウ）4.0（エ）120（オ）10.0 |
| 14 | 3 | 平均 $W_{SW}$ と平均 $N_{SW}$ を用いる。 |
| 15 | 2 | SPT サンプラーの土は乱された試料となる。 |
| 16 | 4 | 単に特異点とするのは誤り。 |
| 17 | 1 | 回転層であることのみで判断できない。擁壁の安全性などの検討も必要となる。 |
| 18 | 3 | 過転圧による強度低下が問題となるため盛土材として注意が必要。 |
| 19 | 4 | 敷地の片側のみ盛土されたとして計算するのが妥当。 |
| 20 | 3 | 捨てコンの主目的には該当しない。 |
| 21 | 2 | pH4 以下の酸性土地盤は注意が必要。 |
| 22 | 3 | 現場目標強度のほうが室内目標強度よりも小さくなる。 |
| 23 | 4 | 施工後 3 時間以内に 1kN 自沈以上確認する。 |
| 24 | 2 | （３）六価クロムが溶出しやすい土のときは溶出試験が必要　（４）同一工法で行う |
| 25 | 3 | 改良体底面の一部分しか支持層に定着しない恐れがある。 |
| 26 | 4 | 採取位置は 2 深度以上、頭部と改良対象層で行う。 |
| 27 | 2 | 層厚 2m以上連続していること。 |
| 28 | 1 | 中間層で高止まりした場合、下部の沈下の検討も必要となる。 |
| 29 | 3 | （１）周面摩擦を考慮しない　（２）損傷など目視検査　（４）継手と最長比の低減必要 |
| 30 | 1 | 住品協倫理綱領参照。 |